

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちにも、ふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

むかしむかしのこと。山の中の一けん家に、ぐずどんがおばばと二人でくらししていました。ぐずどんは、十さいになっても何も知りません。毎日、山の中でぶらぶら遊んでばかりいました。

ある日のこと、おばばはぐずどんをよびました。↓

### 松浦の民話⑧

# 売れない あきない

「持つて行って、だれに売るとな。」

「町にや家がいつびやあある。人もぞろぞろおらす。通りはおらびながら行けば、買う人が出てこらす。」

「そうな、そんなら行ってくるとせん。」

ぐずどんはおばばにそう言うと、荷をかついで出かけました。山を三つ、谷を

「あつそうたい。おりやあきないに来たつたい。あきないするにや、おらばんばつて言わしたぞ。」

そこで、ぐずどんは大声をはりあげました。

「ちやくりかきはいらんか。」  
通る人たちは、頭をひねりました。

「ちやくりかきつちやんなな。」  
そう言いながら行ってしまいました。ぐずどんは、もつとおらばんば売れんかもしれんと思いました。

「ちやくりかきー、ちやくりかきー。」

と一生けん命おらんでみました。

一日中、町の中を「ちやくりかき、ちやくりかき。」とおらびながら歩き回りましたが、だれも買つてくれません。

「おばば、一日中おらんだが、だれも買いにこん。」

「売れんはぎなな、どう言つておらんだとな。」

「ちやくりかきはいらんかつて、大声出したばい。」

「そぎやん言つてわかるもんな。茶は茶で、ぶんぶんに言わにや売るるもんな。あしたまた行つてきない。」

と言うと、おばばはためいきをつきました。

あくる日、また、三つの山と二つの谷をこえて町へ行きました。

「茶はぶんぶん、かきやぶんぶん、くりやぶんぶんいらんか。」

ぐずどんは、おらびながら歩きました。町の人はそばを

通りながら、くすくす笑つて行つてしまいます。ぐずどんはまつかな顔をして、

「茶はぶんぶん、かきやぶんぶん、くりやぶんぶんいらんか。」

と、声もかすれるほどおらびましたが、やつぱり、一つも売れませんでした。

しかたなく家にもどると、おばばはあきれて、

「そぎやん言つたか言つてみる。」

「おばばの言うごと、茶はぶんぶん、かきやぶんぶん、くりやぶんぶんいらんかつておろうだたい。」

おばばは、もうあきれかえつてしまい、

「いくらおらんでも売れんはず、茶は茶と、べつべつに言わんばとたい。あしたもう一つべん行つてきない。」

#### ■あなたの力作を募集!

—民話の感想画募集—

この民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上、左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。応募いただいたイラストは審査をし、上位のものを次の市報で紹介いたします。

【応募資格】住所、年齢、性別など何も問いません。どなたでも応募できます。

【イラストの規格】はがきまたはA4サイズ以内の白紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの（色鉛筆の場合は濃く塗ってください）。

【必要事項】住所、氏名（ふりがな）、電話番号、年齢、職業（学校名）

※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。

※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。なお、いただいた個人情報（民話コーナー以外には使用しません）

【応募締切】11月12日（金）必着  
【応募・問合せ先】  
〒805-0945  
0956-172-1111

松浦市志佐町里免365番地  
松浦市まちづくり推進課  
秘書広報係

0956-172-1111  
Eメール＝  
hsyo@city.matsura.jp

※福島支所、鷹島支所、その他の各支所でも受け付けています。

と言うと、大きなためいきを三つもつきました。

「あくる日も、三つの山と二つの谷をこえて町へ行き、大きな声で、

「茶はべつべつ、かきやべつべつ、くりやべつべついらんか。」

と、おらんで歩きました。あんまり大きな声なので、すれちがう人はたまげた顔をしましたが、さつきと行ってしまっています。お日さまが西にかたむいても、やっぱり、一つも売れませんでした。

おばばは一つも売れない荷を見て、ためいきを五つつきました。そして、

「ああ、おまえを一人であきないに出すのがまちがいじゃった。あしたはいっしょに行くせん、はよねろ。」と、言いました。

あくる日、おばばはぐずどんに荷を持たせ、町へ行くと、「茶はいらんか。」と、おらびました。ぐずどんもまねをして、「茶はいらんか。」と、おらびます。「お茶おくれ。」



むこうから来たおかみさんが、お金をさし出しました。

「かきやいらんか。」

と、おばばがおらびました。

「かきやいらんか。」

と、ぐずどんもおらびました。

「かき、おくれ。」

後ろから子どもがよつて来ました。

「くりやいらんか。」

と、おばばがおらびました。

「くりやいらんか。」

と、ぐずどんもおらびました。

「くり、おくれ。」

むすめさんが家から出てきました。

たちまちみんな売れてしまい、二人はほくほく顔で山へもどりました。

(御厨町田代)

## 松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「つるのおみやげ」のイラストに、5通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



### 【最優秀賞】

榎屋瞳凧ちゃん (星鹿・青島、11)  
「おじいさんの顔のしわまで丁寧に描かれています。おじいさんと向かい合っているツルが今にも話しかけてきそうですね」(か)



### 【優秀賞】

橋本沙弥香ちゃん (御厨・池田上、11)  
「ツルのフンが丸くてかわいいですね。人間とツルの縁取りがきれいに描かれていますね」(か)



### 【優秀賞】

松永美紅ちゃん (今福・寺上、8)  
「太郎べえさんがぐっすり眠ってますね。布団があつたかそうです」(か)



### 【優秀賞】

田中小花ちゃん (今福・北東1、8)  
「掛け軸の緑色と屏の黄色、布団の茶色の色合いが良いですね」(か)



### 【優秀賞】

宮崎菜央ちゃん (今福・木場、7)  
「起こさないようにフンをしているツルがよく描けていますね」(か)